



ジョホール・シンガポール経済特区

北陸銀行 シンガポール駐在員事務所
所長

相川 裕亮



マレーシアとシンガポールを結ぶコースウェイ橋
(右側のビル群がマレーシア)

1. はじめに

マレーシアとシンガポールは、2024年1月11日にマレーシア・ジョホール州とシンガポール間の経済連携強化を目的として越境経済特区「ジョホール・シンガポール経済特区（JS-SEZ）」をジョホール州に設立することで合意し、覚書（MOU）を締結しました。

州都ジョホールバルでのMOUの締結には、マレーシアのアンワル首相とシンガポールのリー・シェンロン首相という両国の政治トップが立ち会い、マレーシアのラフィジ・ラムリ経済産業大臣とシンガポールのガン・キムヨン貿易産業大臣によって調印されており、両国の期待の大きさがうかがえます。

この経済特区の設立によって、国境を越えたヒトとモノとの流れが円滑化されるとともに、ビジネス障壁の緩和、手続きの迅速化、産業の誘致等が図られ、両国の経済発展に大きく寄与するものと期待されています。

シンガポールは1965年にマレーシアから独立して建国されましたが、時を経て国境を越えた経済特区という大きな連携の機運が高まったことには両国のダイナミズムを感じます。今回はこの「JS-SEZ」についてご紹介します。

2. ジョホールとシンガポール

ジョホール州の州都であるジョホールバルは、サッカー好きな方には1997年に日本が初



マレーシア・ジョホール州とシンガポール

めてW杯の出場を決めた歓喜の地として知られており、マレー半島の南端に位置します。マレーシアとシンガポールは、「コースウェイ」と呼ばれる約1 kmの土手橋と西側の「セカンドリンク」という二つの橋によって結ばれていますが、なかでもジョホールとシンガポールを結ぶコースウェイは1日の利用者数がコロナ禍前で40万人を超え、世界で最も利用者の多い陸路であり、最も混雑する国境検問所と言われています。ジョホール州の労働者がシンガポールで働くことやシンガポールからジョホール州へ買い物に出かけることはよく見受けられる光景です。シンガポールの物価は各種調査で世界1位と言われており、週末になると物価の安いジョホール州で物資を購入したり、レジャーのために越境する人が大幅に増えます。

両国の物価の違いを、①ビッグマック指数でお馴染みのマクドナルドのビッグマックと、②一般的なゴルフのビジター料金価格で比較してみました（表1：為替レートは本稿作成時点）。ビッグ

表1 物価の違いの一例

	通貨	ビッグマック	ゴルフ
マレーシア	リンギット	13.40	300
	円換算 ①	418	9,371
シンガポール	ドル	6.85	300
	円換算 ②	755	33,085
倍率	②÷①	1.8	3.5

マックで約1.8倍、ゴルフ料金では3.5倍強と大きな差があることがわかりいただけだと思います。車に乗ったまま越境は可能ですが、特に混み合う土曜日の午前はこの約1km余りを超えるのに長い時には3時間近くかかる場合があります。

地理的な近接性や歴史的背景もあって、マレーシアとシンガポールは経済的な結びつきも強く、互いに第2位の貿易相手国であり、2022年の二国間貿易は前年比18.9%増の1530億シンガポールドルとなっています（表2）。シンガポールはマレーシアの外国直接投資（FDI）の最大の投資国でもあり、2022年にはマレーシアのFDI総額の20.5%を占めています。また、ジョホール州の製造業に限って言えば外国直接投資総額の70%はシンガポールによるものであり、関係性の深さが見て取れます。

表2 マレーシアとシンガポールの貿易統計（2022年）

	マレーシア		シンガポール	
	相手国	金額 (100万RM)	相手国	金額 (100万\$)
輸出 (FOB)	シンガポール	232,566	中国	88,192
	中国	210,624	マレーシア	71,119
輸入 (CIF)	中国	276,505	中国	86,634
	シンガポール	135,649	マレーシア	81,898
合計	中国	487,129	中国	174,826
	シンガポール	368,215	マレーシア	153,017

3. JS-SEZへの期待

(1) 具体的取組事例

本格的な合意は2024年の第4四半期となることが予定されており、まだ計画段階ではありますが、実現に向けて以下の取り組みを検討していくことが発表されています。

- ①パスポートを不要とするQRコード通関システムの導入
- ②陸上検問所における貨物通関のデジタル化
- ③各種許認可やライセンス申請を円滑化するためのワンストップ・ビジネス／投資サービス・センターの設置（ジョホール州）
- ④フィードバックのための投資家フォーラムの共催

- ⑤再生可能エネルギー協力の促進
- ⑥関連産業における人材や技能の格差に対処するための研修や職業訓練の企画
- ⑦貿易と投資を促進するためのジョホール州とシンガポール間の共同誘致活動

(2) 成長が期待される業種

国際金融都市であり優秀な国際人材が豊富な一方で、土地・人件費・インフラ等のコストが高いシンガポールの企業が、JS-SEZを通してジョホール州のより広大な土地や電力・水道等のインフラ、労働力等を活用することで、双方に大きな効果をもたらすことが期待されています。特に恩恵を受ける業種として以下のものが挙げられます。

①製造業・物流業

シンガポールと比較して費用対効果がより高いジョホール州の土地や労働資源が活用可能となることで、世界最大規模の港湾・空港という物流拠点へのアクセスが容易になる

②観光業・サービス業

より多くの人を引き付けることになるため、ホテル・娯楽・飲食業等の需要増加が期待される

③金融

投資の促進や経済活動の増加により、資金や金融サービスなどの需要増加が期待される

シンガポール企業による投資が増加することで、マレーシアはシンガポールの高度専門人材の活用、投資促進、雇用創出、賃金上昇、消費拡大等幅広く恩恵を受けることができます。互いに不足するものを補完する関係にある両国にとっては、ヒト、モノの移動が活発になることで広範な経済圏が出現し、双方にメリットがもたらされると見込まれています。

4. おわりに

香港に隣接する深圳が経済特区として成功したように、JS-SEZはジョホール州とシンガポールを発展させるものと大きく期待されています。

現在建設中で2026年までの完成が予定されている「越境鉄道」や「シンガポールークアラルンプール間（ジョホール経由）の高速鉄道構想」といったインフラ計画もあり、両国間はますます身近になっていくものと思われます。

まだまだ今後の計画は未知数な部分もありますが、国境を越えた経済特区として大きな一歩を踏み出したことに高い関心が寄せられています。